

「学ぶ力」	
成果	課題
<p>◇全国学力・学習状況調査で「算数の勉強は得意である」と肯定的な回答をした割合が、北海道の割合よりも高いため、算数については自信をもっている子が多い。</p> <p>「理科の授業では問題に対して答えがどのようになるのか自分で予想(仮説)を考えている」では、全国よりも肯定的な回答の割合が上回っている。見通しを立てたり、探求的な学習の面白さを実感したりしていることが分かる。</p>	<p>◇全国学力・学習状況調査で「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」では、肯定的な回答が全国の半分の数値であった。見直しや振り返りの時間の設定が必要である。</p> <p>◇「国語の授業で、先生はあなたの学習のうまくできないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるのかを教えてください」について肯定的な回答が全国よりも大きく下回っているため、教師の価値づけや授業改善が求められる。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇共通指標アンケートで「自分が必要とされていると感じる」と回答した割合が他の相互承認に関連する項目よりも低い反面、「人の役に立つ人間になりたいと思う」の数値は高い。相互認証の場面や教師による価値付けを意識的に設定し、学習意欲や自己肯定を高めていく。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査より、「人の役に立つ人間になりたい」「人が困っているときは、進んで助ける」と回答した割合が全国平均よりも下回り、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」「将来の夢や目標をもっている」も下回っているため、相互認証の場面を意図的に設定することで自己肯定感や学習意欲の向上につなげていくことが大切である。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

主体的取り組み、学び合い高め合う力

取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自主的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 研究主題「ともに学び合い高め合う子どもの育成」に基づき、教職員が互いの授業案や授業の交流する機会を設定する。</p> <p>(2) 授業改善に向けた研修会を定期的に行う。</p> <p>(3) 単元や題材の課題解決に向けて、自分の活動の見通しを立てたり、探求の方法を交流したりする場を位置づける。</p>	<p>①縦割り活動で活動内容の検討を行ったり、遠足のコースを決定したりする。</p> <p>②委員会活動でPTAと協同でベルマーク回収を呼び掛けたり、集まったベルマークの活用の仕方を話し合ったりする。</p> <p>③学級会活動で自らよりよい生活にする方法を考える場を設定する。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について		
<p>◇まなびポケットで自己の課題に向き合う時間、それをまとめていく時間の設定</p> <p>◇スクールタクトの活用で相互認証の場面の設定</p> <p>◇canvaで自分の学びを編集、発表、振り返りに活用</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

